

京都・京福電鉄でのスロープ対応の例



京都の京福電鉄。
(通称、嵐電)
全 22 駅・通常は 1
両単行でワンマン
運転を行っている。
ラッシュ時や
観光シーズンには
2 両編成。

四条大宮駅・帷子ノ辻
駅・嵐山駅を除き、19
駅が無人駅。

駅での対応ができない
ため、運転席横にスロ
ープ板を積み込み、各
駅の乗降対応。運転士
が行っている。



スロープを積み始めたのは、2011 年
頃から。1 編成につき 1 枚と、有人駅
3 駅それぞれに 1 枚置いている。
積み替えの手間も省かれ、車庫にもそ
のまま出入りする。

簡易電動車いすで乗り込む様子。

ドア出入口が少しだけスロ
ープになっている。渡し板を
かけやすくするための工夫。



京都・京福電鉄でのスロープ対応の例

水間鉄道とのやりとり経過

2018年3月16日

水間鉄道にスロープ車内（運転室）常備を要望。その際に他社の好事例として京都「京福電鉄（嵐電）」を実際に利用して体験をまとめた（上記）を渡した。

2018年3月24日

水間鉄道で現在使用しているスロープ（ケアスロープ TR）での全駅乗降テストを行い、乗降が問題なくできることを確認した。

2018年3月29日

導入してもらいたいスロープ（ダンスロープ PRO）と避けて欲しいスロープ（デクパック）、LED付きの光るスロープについて足立から水間鉄道へ情報提供。新しいスロープ導入前には地元の車いすユーザーと検証を一緒にやってくださいと依頼。

2018年4月6日

水間鉄道よりダンスロープ PRO の注文にあたり、デモ機スロープをレンタルしての実証実験の協力依頼をいただく。

2018年4月9日

水間鉄道よりデモ機スロープが届いたこと、実際に列車扉に置いてアタッチメントもピッタリだったと現場の写真付きで報告をいただく。

2018年4月10日

デモ機スロープでの実証実験日が4月16日に決定する。

2018年4月16日

水間鉄道担当者2名、車いすユーザー3名（手動・簡易電動・電動各1名ずつ）が参加し、ダンスロープ PRO デモ機での実証実験を貝塚駅にて行った。水間鉄道は全部で4編成（1編成2両）あるため、元々使用していたスロープ2本と、新たに2本を購入して対応する見込みだと運用予定の説明があった。こちらからは万が一問題があればその時に随時検討するとして、本格的に暑くなる時期までの可能な限り早期対応を依頼した。

2018年4月18日

水間鉄道から、全列車（4編成）にスロープを載せた形での運行開始が4月23日に決定したと連絡あり。

2018年4月23日

全列車（4編成）にスロープを載せて運行開始。

経過の補足

正式に要望を出す以前から、事前連絡がなければ乗れない状況を改善してほしいと日々水間鉄道を利用する車いすユーザー（4名）から働きかけ続けていました。実際に「事前連絡した時間に移動が間に合わず乗れない」「連続して車いすユーザーから乗車希望があったが乗車対応できない」ケースは発生していて、対応する乗務員からも「何とかできないか」と意見が会社に挙がっていました。

スロープ積み込み対応が始まった後に担当者から聞いた話ですが、「導入はしたいが具体的に新しく買うべきスロープに関する情報（ユーザーにとって何がよくて何がダメか）がなく、なかなか踏み切れなかった。その情報を足立とのやり取りの中で明確にもらえたので、会社として意識が上がったのが大きかった」と聞きました。